

震災13周年 1・13被災地集会

反失業の闘いが前進

1月13日、阪神淡路大震災13周年・反失業総行動の集会在神戸市新長田勤労市民センターで開催され、130名の仲間が結集した。

被災地神戸では、生きる権利・働く権利を求めて、絶対あきらめずに13年間粘り強く闘ってきた。いま、被災地共闘の団結という宝を手している。

「対テロ」戦争や「新自由主義」攻撃のなかで、全国・全世界で生存権が危機に瀕している。この団結を、さらに一歩前に進めることと。全国・全世界で立ち上がる労働者・民衆の闘いと結びついて、共鳴し合うこと。その



島本さんの講演と寸劇でもりあがった1・13集会

先頭に被災地が立つた。震災から13年、生存権をかけて頑張ってきた。良くなるどころか悪くなる一方だ。戦争、雇用破壊のワーキングプアと自分の身近なところから生存権が奪われている。絶えず一歩前進して、資本や行政と闘う」と雇用と生活要求者組合の長谷川正夫代表が開会あいさつ。

震災直後、医療テナを張つてともに闘った高槻医療福祉労働組合からあいさつ。労働相談プレハブを建ててくれ、ともに労働相談を闘った仲間も参加した。対行政闘争でいつも力になってもらって

いる栗原富夫・神戸市議は「世の中が腐っているのに、それを変えるわれわれの力が足りない。がんばって闘い続けよう」と訴えた。多大な支援をつづけてくれた勤労千葉からのメッセージが紹介された。

要求者組合・蒲牟田事務次長が「各団体が自分の足元のところで闘い、しごと開発が打ち切られるときは県庁に突入し、番町の仲間が差別を受けたときは市役所に座りこんで抗議し、神戸空港に反対して空港ロビーに突っ込んで抗議した。生き残るための闘い」

と昨年闘ってきた」と昨年闘いを総括し、「新たな闘いを開始する。当面、番町の同和住宅追い出し阻止を最重要の闘いとしてとりくもう」と方針を力強く提起した。

雇用と住宅問題は一体

「ルポ解雇」「住宅喪失」などの著者の島本慈子(やすこ)さんの講演は、被災地の闘いや思いと完全に重なる、説得力あふれる内容だった。

大震災のとき、日本列島は150兆円の住宅ローンの上に乗って

参加団体の発言。関西合同労組からは港湾労働者の争議の闘いを、しごと開発就労者組合はミニデイサービスを紹介を、被災地労働者企業組合の仲間

劇あり踊りあり

ミニデイサービスの通所者・スタッフのみなさんが、河内男節で炭坑節踊りを楽しく踊ってくれた。フリートークでは、在日二世の方から、従軍慰安婦謝罪・補償の訴えが、日々雇用の男性から、神戸のホームレスが2800人にのぼる実態が報告された。星野さん救援運動の女性労働者を軽視する世の中に怒りをぶつけた。最後に、石田関西合同労組委員長が、団結ガンバローで締めくくった。

ここに見られるように労働・雇用と住宅問題は一体である。湾岸戦争では、アメリカエリート支配層は「戦争は必要だが、実際に戦い死ぬのは、われわれ以外の者」と言い放つたが、これは「新自由主義」の思想が創り出した格差社会の真髓」と弾劾した。

最後に、「被災者生活再建支援基本法で、住宅支援を絶対しない」といつていた国の壁を突き破ったのは神戸、被災地の人たちの運動。みなさんの闘いに期待し、私も頑張る。私たちの仕事は、生活基本法に、生存権の魂を吹き込んでいくこと」と締めくくった。

寸劇「戦争伝説」は、各団体の人たちが協力しあって反戦劇を準備した。若者がよくがんばり、笑いと拍手が渦まいた。

「闘いの報告と決意続々」

「闘いの報告と決意続々」

「闘いの報告と決意続々」

現場からの報告

08年の火ぶたさきる正月闘争ー和歌山・梅田・加古川で闘われる

毎年恒例となっている関西の元旦闘争だが、火ぶたさきるにふさわしく、関西の労働運動の課題、労働委員会の勝利をくつがえす反動司法の逆転攻撃に示す闘いとなった。

「労働組合は正社員の既得権を擁護する組織だと見られがち。連帯という原点に立ちかえり、非正規労働者を仲間として迎えられる時だ」(金子勝慶応大教授)

南労会理事長宅を100名で包囲

小雪舞う橋本市紀ノ川河川敷に組合旗がひるがえり、100名をこえる仲間が南労会松浦理事長宅包囲糾弾。元旦行動に結集する。20本近くの赤旗・ノボリがちぎれるようには



和歌山・紀ノ川河川敷に組合旗がひるがえる(1・1)

関トラ分会の闘旗ひるがえる

2日には兵庫県加古川郵便局前、午前8時凍てつく寒さの中、「闘」が染め抜かれた関西トランスポート分会旗(勝利した至通4・28連絡会から贈呈された)がひるがえる。出勤する郵政労働者と交歓しながら、関西合同労組の正月闘争が共闘など30名でたたかわれた。

昨年9・28勝利判決で職場復帰した組合員と共闘は、責任逃れの郵政と旧経営陣の徹底追及の闘いに立った。敵を驚愕させた。敵を驚愕させた。

全日建連帯労組関西地区生コン支部は高槻・和歌山など関西全域で元旦闘争を闘い、同日梅田ヨドバシカメラ前では関西合同労組のコムサ解雇撤回の情宣活動が青年を中心に30名で元気に行われた。

正月闘争から、08春闘・イラク反戦・三里塚・戦争と非正規化のためのG8サミット粉砕へ！労働運動の荒々しさを復権させよう。闘いは始まった。(兵庫労働通信員K)

支部、関西合同労組、などから闘いの息吹あふれる連帯発言がなされた。そのあと松浦ら南労会幹部宅をくまなく席捲するデモに打って出た。12名もの組合員を解雇した経営に正月はないぞ！労働者医療機関を私物化し、変質させた南労会経営陣を徹底糾弾し、勝利への不屈の意思をたたきつけた。

大衆的実力闘争と三里塚結集運動の復権で、農地強奪・北延伸阻止！3・30三里塚現地へ

市東さんの農地を守ろう！

昨年一年の攻防を通して本2008年三里塚闘争は、42年の闘いの最重要局面を迎えた。三里塚闘争の原点である農地死守・実力闘争と二期阻止・空港の成否を決する情勢を迎えたのだ。

ただちにわれわれは、この攻防にかちぬく強力な闘争陣形をつくりだしていかなければならない。敷地内農民・反対同盟を先頭に、北延伸を阻止する現地攻防と、市東さんの耕作地をめぐる裁判(現在二つの裁判)をはじめとする裁判闘争を闘いぬこう。そしてこの闘いを全国の三里塚勢力と労農学連帯の力で支えぬこう。現地調査・援農活動を不断に組織し、全国・関西各地での集会や三里塚写

真展、野菜市などを通過して、大衆的実力闘争と三里塚結集運動を復権させよう。これはわれわれに今や待ったなしで問われている課題だ。

第一点は、暫定滑走路の北延伸を阻止することだ。その攻防の焦点であり勝敗を決するたかひが、市東さんの耕作地(及び天神峰現闘本部)を死守することだ。

すでに二つの裁判(「不法耕作」でつち上げ裁判と農地取り上げ違憲訴訟)が昨年からはまり、政府・千葉県・空港会社(NAA)の「農民と農地を守るための農地法で農地を奪う」という違法不法を通りこした無法の数々の実態が明らかにされている。そして本年10



葉山岳夫反対同盟顧問弁護士を迎えての三里塚講座(11月22日)



新鮮な三里塚の野菜が関西に。恒例の団結野菜市(12月27日)



08年の闘いを力強く宣言した反対同盟旗開き(1月13日)

月には、農地強奪の強制執行が実際に始まるうとしているのだ。(これらの点についての詳細は、三里塚反対同盟ブログ <http://www.sanrizuka.com/~sanrizuka-domei.jp/blog/> 及び関実ブログ <http://kanjisu-sanrizuka.cocolog-nifty.com/> を参照)

暫定滑走路北延伸は「2010年3月完成」とされているが、その攻防はすでに重大局面に突入しており、文字どおりこの力勝負に日々をかちぬいていかなければならない。

また「戦後憲法の申し子」ともいべき農地法の破壊・解体とたたかひは、改憲阻止闘争そのものだ。さらに市東さんの耕作地強奪は、絶滅攻撃ともいべき農業切り捨て・農業破壊の典型だ。このたたかひのなかに労

農連帯・労農同盟の真価が問われていることを肝に銘じ、血盟を誓約したものと闘いぬこう。

「市東さんの農地を守ろう！」の大衆的運動は、千葉県下を中心に労働者、農民、市民によって組織され、裁判闘争などが担われている。このたたかひを全国各地と労農学に拡大しよう。

第二点は、2002年の暫定滑走路供用開始以降、用地内の天神峰・東峰地区は、農家の40メートル上空の超低空飛行やジェットブラストなどによる人権蹂躪(じゅうりん)、騒音・排ガスなどの健康破壊、安全無視が平然とまかり通っていることだ。

PAC3と成田空港は一体だ

第三点は、成田空港の軍事空港化が一段と進んでいることだ。昨年末に千葉県下の自衛隊習志野基地に、PAC3(パトリオット迎撃ミサイル)が強行配備された。「朝鮮有事」の際には巨大な兵站・出撃基地に

なる成田空港の軍事化(50万米兵の飛来)と一体の攻撃であることは明らかだ。さらにこの間「国民保護法制」整備やその訓練が再三くりかえされている。沖繩のたたかひとともに、三里塚・関西の東西両軍事空港反対は、反戦・反基地闘争を闘い抜こう！

1月13日の敷地内デモと反対同盟旗開き、15日の第二回市東さん農地取り上げ違憲訴訟をもって、2008年の激闘は開始された。3・30三里塚全国闘争にむけて闘い抜こう。三里塚決戦勝利！

全関西実行委とともに、2月下旬の三里塚公開講座(農業問題についての学習会)、写真展などの諸企画を成功させよう。

また、年末に政府は来年度予算案で関空連絡橋を国有化する方針を打ち出したが、これも私たちが以前から指摘していたように軍事空港化の一環です。さらに9月27日から関空に着陸するルートまで「陸上ルート」を強行しました。98年離陸ルートの陸上ルート強行以上の暴挙です。破綻した関空二期の便数を増やすために、地元住民に犠牲を強要するものです。こんなことは絶対に許せません。これらは米軍再編

闘争案内 1・27関西新空港粉砕闘争へ

たたかう仲間のみならず、日頃のご奮闘に敬意を表します。2008年を勝利の年にするために共に闘いましょう。

昨年、ついに労働者、農民の怒りが安倍政権を打倒しました。そして9月29日、沖繩県民大会が12万人の労働者人民が決起する歴史的な成功を勝ち取りました。また11月4日には、東京日比谷野音に日本、韓国、アメリカの労働者人民が5700名結集し、集会が大成功しました。

関西新空港闘争では、7月22日全国集会を闘い、8月2日二期開港に抗議する闘いに決起しました。今年、関空新空港闘争から対テロ新特措法阻止闘争、憲法改悪阻止闘争を爆発させましょう。

世界金融恐慌の現実化とイラク侵略戦争とイランへの拡大情勢は、各国の争闘戦を激化させ、福田政権を危機に陥れています。小泉政権以来激化させてきた戦争・改憲、民営化・労組破壊の攻撃を強めようとしています。それは同時に労働者人民がたち上がる情勢をつくりだしています。「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」が急増し、青年労働者が「生きさせろ！」と立ち上がり始めています。

関西新空港闘争も決戦を迎えています。8月2日関空二期開港を強行しましたが、便数は増えていません。他方、6月26日「二期計画案」を発表し貨物に重点を移す「国際貨物ハブ空港」構想を発表しました。これは「アジアゲートウェイ」戦略の一環であり、関空をアジア侵略の拠点空港に位置づける戦略です。すでに日米両政府は朝鮮侵略戦争を行うための「作戦計画5055」に合意し、春から現地調査を始め、関空、成田など民間空港・港湾を米軍優先で軍事使用することが核心になっています。関空を軍事空港にするな！この闘いは最大の課題になりました。

関西の軍事使用反対！国際貨物ハブ空港化反対！対テロ新特措法採択弾劾！

1・27関西新空港反対集会

とき：1月27日(日)午後1時半集合、2時開会

ところ：りんくう公園太鼓橋(例年と同じ場所です。泉佐野市「りんくう」駅下車2分)

主催：大阪湾岸住民4団体(泉州・淡路・明石・東灘) 関西反戦共同行動委員会

集会后、泉佐野駅までデモをします。(主催者の案内を一部縮めています)



とめよう戦争への道！百万人署名運動のよかけで、関西からも上京し1月10日に国会闘争が60名で闘われた。また11日の再議決を弾劾し、12日に百万人署名の仲間により大阪・神戸で緊急街宣が行われた。

沖繩、岩国の闘いに続く 福田をたおせ！改憲とめよう！ 2・10集会の成功をかちとろう

沖繩・岩国の闘いに続く

08年の階級情勢は、

対テロ給油新法の衆院再議決の暴挙と国際帝国主義の金融不安の絶望的危機にはじまり、乱気流のなかでサミットと改憲をめぐる政治決戦と春闘の幕があけようとしている。われわれは、07年後半に切り開かれた沖繩と岩国での地域総ぐるみの決起につづいて、関西の地でも壮大な労働者人民の総反撃をつくりだし、戦争と労働運動つづき、生活破壊をおし進める福田政権を労働者人民の力でうち倒していかなければならない。その第一弾が百万

生活での怒りと反戦が一つに

福田打倒が人民の意志

沖繩の歴史教科書問題と辺野古新基地建設、岩国の米軍基地拡張攻撃で問われている問題は、過去の侵略戦争と次の侵略戦争の準備が一つながりになっているという事だ。すべては憲法問題に天皇制と安保の問題につながっているのだ。労働者階級人民の怒りは深く広く激しい。その根底に生活破壊への怒りと将来への不安がある。大事なことは、それが「二度と戦争を

自公政権の再議決と対決し、対テロ給油新法阻止の国会闘争闘われる

2・10集会賛同カンパのお願い
賛同カンパ11口500円です。集会を成功させるために皆様のご支援をお願いします。
■カンパ送付先
郵便振替口座名称 百万人署名運動・関西連絡会
郵便振替口座番号 009302119042
※振替用紙の通信欄に「2・10集会賛同カンパ」と明記してお送り下さい。

2・10集会要項

開場 13時 13時30分開会
会場 大阪市立住まい情報センター3階ホール
(地下鉄堺筋線・阪急線「天神橋6丁目」駅下車すぐ)

集会内容

講演 知花昌一さん(沖繩読谷村会議員)
小田原紀雄さん(百万人署名運動事務局次長)

報告 入間基地PAC3阻止闘争の報告
実行委参加・賛同団体からのアピールなど

集会後 梅田までのデモ行進
主催 2・10集会実行委員会

いか。その施政方針演説も、対テロ給油新法で始まり、改憲準備に終わっているのだ。

知花昌一氏、

小田原紀雄氏来る

沖繩戦隊自決の語り部として闘い、一坪反戦地主として、「日丸」焼き捨てに決起した知花昌一氏は、2月10日投票の岩国市長選挙の応援のあと、沖繩県民総決起の息吹を伝えるに関西に來られる。小田原紀雄氏は、改憲阻止を闘う百万人の決起を訴えに來られる。各地で始まったPAC3との闘いの報告も行われる。

安田派中央の本質

は、革命と内乱にたいする恐怖と反動である。帝国主義と権力にたいする綱領的屈服が問題になる情勢だからこそ発生した投降と転向である。

清水式革命論の破産

安田派中央とは清水式革命論の破産の所産である。清水議長そのひとは、権威主義的な自己保身と他者不信から労働者階級との生きた交通を拒否し、そのために生きた階級関係に立つて敵の攻撃と味方のたたかひをつかむことができない、いわば机上の人だ。

「5月テーゼ」からの脱落・背反

安田派中央は「5月テーゼ」が突きつける飛躍の拒否、権力・資本への屈服と敗北主義から発生した。

3・14決起への恐怖と反動

安田派中央の変質の根底には、06年3・14決起にたいする恐怖と反動がある。

「革共同通信」の発刊は、日本階級闘争と反スターリン主義・革命的共産主義運動の危機を、大胆にぶち破っていくであろう。

「革共同通信」の発刊は、日本階級闘争と反スターリン主義・革命的共産主義運動の危機を、大胆にぶち破っていくであろう。すべてのみなさん、『革共同通信』とともに08年サミット・改憲決戦、三里塚・沖繩闘争、春闘の階級的爆発をきりひらき、武装し戦う革共同を奪還しよう！

(一面からつづく)

帝国主義への屈服

安田派中央の本質は、革命と内乱にたいする恐怖と反動である。帝国主義と権力にたいする綱領的屈服が問題になる情勢だからこそ発生した投降と転向である。

その転回点は、01年9・11反米ゲリラ戦争から03年イラク開戦と反戦闘争の爆発の過程であった。そして小泉・奥田の日本版新自由主義の攻撃の全面化、改憲攻撃の本格化の過程であった。

安田派中央の「階級的労働運動路線」の核心は、「動労千葉労働運動への特化路線」である。それは帝国主義とその権力との決戦を回避して、頭を低くして組織と運動の防衛をはかることがいつさいという路線である。

安田派中央の08年新年号論文がG8サミット決戦について一言も言及していないのは、その綱領的思想的な変質を示す象徴的な事実である。

すなわち反帝国主義・反スターリン主義世界革命戦略の放棄、日帝・国家権力との闘争からの逃亡、被差別・被抑圧人民との連帯の思想の放逐、階級闘争からの召還、これが安田派中央「階級的労働運動路線」の階級的の本質である。

この清水式革命論の実践的な破産が明らかになるにつれ、清水議長は安田一派への屈服を深め、革共同中央の変質が進行していった。そして、いまや安田派の「階級的労働運動路線」に「革命路線」の体裁を与えることが、清水議長の最後の務めとなったのだ。

「5月テーゼ」は、革共同の反帝国主義・反スターリン主義世界革命戦略と戦略的総路線の本格的全面的な実践を要求した。その実践過程は、われわれ一人ひとりに共産主義者であるかどうかをあらためて試すものであった。ところが安田同志はここで飛躍を拒否していったのである。

被差別・被抑圧人民のたたかひをみずからの課題とすることの拒否

国鉄決戦の政治決戦化への日和見主義、国労の労働者への不信

労働者が政治闘争に決起することへの不信と反発

革命的議会主義への日和見主義的反発

党のボルシェビキ的規律への解党主義的反発

安田派中央による運動は、このように共産主義者としての飛躍を拒否した地点で組織されているのだ。

問題は、革共同中央が生み出したものだ。中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

清水式革命論の破産

安田派中央とは清水式革命論の破産の所産である。清水議長そのひとは、権威主義的な自己保身と他者不信から労働者階級との生きた交通を拒否し、そのために生きた階級関係に立つて敵の攻撃と味方のたたかひをつかむことができない、いわば机上の人だ。

清水式革命論とは、客観主義的な情勢分析、政治力学的な階級関係分析、古色蒼然たる経験主義とそれらに規定された戦術主義である。そして中央にたいする「一致」を上意下達的に組織していく組織論である。

しかし結局のところ清水式革命論には世界恐慌をひたすら待望する以外の「実践」はないのだ。

この清水式革命論の実践的な破産が明らかになるにつれ、清水議長は安田一派への屈服を深め、革共同中央の変質が進行していった。そして、いまや安田派の「階級的労働運動路線」に「革命路線」の体裁を与えることが、清水議長の最後の務めとなったのだ。

「5月テーゼ」は、革共同の反帝国主義・反スターリン主義世界革命戦略と戦略的総路線の本格的全面的な実践を要求した。その実践過程は、われわれ一人ひとりに共産主義者であるかどうかをあらためて試すものであった。ところが安田同志はここで飛躍を拒否していったのである。

被差別・被抑圧人民のたたかひをみずからの課題とすることの拒否

国鉄決戦の政治決戦化への日和見主義、国労の労働者への不信

労働者が政治闘争に決起することへの不信と反発

革命的議会主義への日和見主義的反発

党のボルシェビキ的規律への解党主義的反発

安田派中央による運動は、このように共産主義者としての飛躍を拒否した地点で組織されているのだ。

問題は、革共同中央が生み出したものだ。中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降の問題は、革共同中央が

報告・決定集

革共同関西党員総会

増刷出来

革共同中央の組織破壊・路線的変質に抗して、関西地方委員会が党員総会を開催
「階級的労働運動路線」の名で、政治闘争・改憲決戦と、職場での労働組合運動を否定し、「07年7月テーゼ」で差別・排外主義との闘いを放棄したことに対する、全面的批判の議案と、20人の発言、付属資料を収録

党中央変質の核心問題を明らかにする！

巻頭アピール／総会コミュニケ
第一号議案 「11・6政治局決定」を批判する
第二号議案 党を分裂させる「関西WOB」を凍結せよ
第三号議案 (1) 7月テーゼの撤回を求める 他
付属資料
7月テーゼ批判 関西入管闘争委員会
自己批判と決意 椿 邦彦
労働者党員の意見書 他

革共同関西党員総会
報告・決定集
A5版 154頁 800円